

## 令和8年度 第1回 県・市町懇話会 議事録

日時：令和8年4月27日（月）13:30～15:00

於：兵庫県公館 大会議室

### 【開会挨拶】

（齋藤 兵庫県知事）

本日は年度初めの大変お忙しいところ、多くの市長・町長の皆さまに、県・市町懇話会にご参加賜りまして、まずは御礼を申し上げます。また本日は、新しく就任された吉平洲本市長、再選された石井西宮市長にもご出席いただいております。そして、各市や町の皆さまには、日頃から県政の推進に格別なご理解・ご協力いただいておりますことを、改めて心から感謝申し上げます。

市長会におかれましては、宍粟市の福元市長が新たに会長に就任されました。新たな体制のもと、ますます市政の発展に向け、縣市協調して、様々な取組をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。また、町村会におかれましては、引き続き県との連携を密にさせていただきながら、県政の推進とともに、県民の皆さまの福祉の向上に向けた取組を進めていきたいと思っておりますので、山名町長はじめ、皆さまにもよろしく申し上げます。

さて、新年度が始まりました。物価高騰、緊迫化が続く中東情勢などを受け、原油や石油関連の物資などの供給が不安定化しています。消費者の物価高騰、それから企業の資材不足など、県民生活や県内の事業者の活動にも影響が出始めています。

県では、「はばタンPay+」第5弾を実施させていただき、県民の家計を応援しつつ、県内の地場産業や中小企業の経営を支援していくための特別相談窓口を3月に設置し、4月からは、資金繰りの支援対象の拡大などの取組を行っております。

外交問題・国際情勢については、今も政府の方で、外交努力や調達先の多様化などの対応をしていただいておりますが、その上で県としては、しっかりと現場の声を聞きながら、短期的な資金繰りの支援や、事業者の皆さまが中長期的に安定して事業経営ができるような、構造改革に向けた取組の支援についても、これから考えていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

さて、今年度の予算は、後ほど各部長より説明させていただきますが、若者・Z世代応援施策を中心に、「希望をつなぐ、未来をつくる予算」としてスタートしました。教育への支援、産前・産後ケアや不妊治療の支援など、個々のライフステージに応じて展開してきた多彩な政策を、今後も一層進めていきたいと考えております。

一方で、転出人口の抑制と転入人口の増加に向けた取組も大切です。4月には、加西市におきまして、市街化調整区域の区域区分の廃止を県で初めて行いました。高橋市長にも何度もご相談させていただきながら、土地利用のコントロールを市や町にお願いするという権限移譲を、スタートさせていただくこととなりました。農地や山林、自然の保全が大前提にはなりますが、先日、加西市でも現場に行かせていただきましたが、今すでにある工場や空き家をリノベーションなどをするにあたって、底地が市街化調整区域であるがゆえに、手続きに時間がかかったり、調整に手間取ったりということがありますので、様々なチャンスを捉えていくためにも遊休地の有効活用というものは全県的にも大事なポイントだと思っておりますので、県からの権限移譲や、必要であれば法改正を国に求めていくことも視野にいれながら、転出人口の抑制と転入人口の増加に向けて、企業誘致をはじめとする、地域の活性化に取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

そして先ほどご説明がありました、ワールドマスターズゲームズもいよいよ来年開催となります。国内外から数万人規模の、多くの来訪者が来られますので、万博に向けて整備してきた「ひょうごフィールドパビリオン」をはじめとする様々なコンテンツや観光交流施策を、この機会に、観光の呼び水、そして地域の活性化へ繋げていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

こうした施策を着実に実行していくためにも、市や町の皆さまとの緊密な連携が必要だと考えております。また、阪神・淡路大震災の被災県であることから、震災からの復興・復興に際して、多額の起債を負ったということで、実質公債比率が極めて高い状態の中で、金利上昇局面を迎え、公債費の負担が大きくなっています。今年度には、起債許可団体への移行も見込まれている中で、過去の財政運営の検証もしっかりと行いながら、適正な投資規模、公債費の管理を行っていくことが必要となってきます。

兵庫の発展のためには、財政の健全化と未来への投資をどう両立していくかということが大変重要であると思いますので、今後県の中で有識者などの意見もいただきながら議論していきつつ、県議会、市や町、県民の皆さまとも情報共有しながら改革を進めていきたいと考えておりますので、引き続き今年度もよろしくお願い申し上げます。

本日は限られた時間ではございますが、活発な意見交換ができればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### (福元 宍粟市長(市長会会長))

先ほど齋藤知事から丁寧にご説明をしていただき、大変光栄に思います。改めて、宍粟市長の福元でございます。先週の4月22日に市長会総会におきまして、前任の酒井丹波篠山市長の後を継いで、会長の任位を引き受けさせていただきました。精一杯、その役を務めさせていただきたいと思っておりますので、改めてどうぞよろしくお願い申し上げます。

この度は、県と市町の協議の場として、このような機会を設けていただいたこと、日頃より齋藤知事、副知事、また本日もご出席の県の幹部職員の皆さまはじめ、県職員の皆さまに色々ご尽力を賜っていることに対しまして、市長会を代表して、厚く御礼を申し上げます。

この後の意見交換の場におきまして、私からも少し発言させていただきたいことがあります。各市町からも県内共通の課題であったり、あるいは地域課題等についても発言があらうかと思っておりますので、ぜひその内容についてお汲み取りいただきまして、県と市町がより緊密に連携をする中で、その課題解決に向けて取り組んでいきたいと、さらなるご支援、ご協力を賜りますようお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

#### (山名 神河町長(町村会会長))

町村会会長の神河町長、山名宗悟でございます。令和8年度の第1回県・市町懇話会ということで、このような場を設けていただき、心から感謝いたします。併せて、県当局におかれましては県下41市町のこの発展に、あらゆる角度から尽力いただいておりますことを、この場をお借りいたしまして、厚く感謝を申し上げるところでございます。

先ほど福元会長のご挨拶にもありましたが、まだこの後、意見交換の場で、私も少しばかりの発言もご用意をしているところではございますが、改めて齋藤知事におかれましては、この町村会、12町あるわけですが、ご承知のように、この広大な兵庫県、瀬戸内海や日本海などの沿岸地域から、そして山間部、中山間地域といった特色ある多様な地域において、それぞれが掲げる政策課題についても、大きく違った部分があります。

こうした中で、地域創生総合戦略を打ち立てながら、各種施策の KPI 達成に向けて、全力を挙げているというところがございますが、今回のこの県・市町懇話会の限られた時間の中で、少しでも、それぞれの市町の実態がお互い共通認識できるような、そういった懇話会になりますことを心から祈念申し上げまして、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。

## 【資料説明】 ー 省 略 ー

### 【意見交換】

#### (福元 宍粟市長(市長会会長))

それでは市長会を代表し、私からご提案させていただきたいと思っております。なお、この後、提案させていただく件につきましては、町村会の山名会長とも事前にお話させていただき、同じ思いであることを確認しております。

ご存知の通り、県と市長会の協議等の場として、現在、県・市町懇話会を年2回、政策懇話会を1回、知事要望を2回、計5回の貴重な機会を設けていただいております。まずは、このことについて厚く御礼申し上げます。

提案の1点目としまして、市長会として、この5回の貴重な機会をさらなる、県政・市政発展のために、より建設的な意見交換の場となるようにしていきたいと考えておるところです。

現状といたしましては、県・市町懇話会、政策懇話会は、県の予算や、あるいは重要施策の説明を一方的に聞く場となっております状況であります。また、首長からの発言も、県内共通の課題に関する議論というよりも、地元の細かい課題や要望を伝える場となっていると、近年感じております。せっかくの、知事はじめ県幹部の皆さまや首長が一同に集う貴重な場でありますので、知事の思いや理念をお聞きし、また、県の未来や県政・市政における重要課題についての議論・対話を行う場にはできないかと考えております。各種ある懇話会等がそれぞれ果たすべき役割を改めて見直し、県・市のビジョンを共有しながら、政策議論を深めていく場として、再構築を求めるものであります。

具体的に言いますと、本日、市長会からの重点要望を投げかけさせていただき、できるだけ早い段階で県から回答をいただき、年間を通じて、また要望によっては中長期で議論させていただきたいことや、県の予算関連政策の概要を早期に提示いただき、市長会でも議論し、随伴事業等できる限りの協力体制を築いていけるよう、県へその内容を報告するような場を設けていただきたいこと。また、県からも市長会に対し、協議・依頼されたい事項や、政策テーマ等を我々に伝えていただき、県・市町懇話会などの場で建設的な意見交換、いわゆるキャッチボールができればと考えております。

詳細やスケジュールについては、後日、事務局より改めてご相談させていただければと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

次に2点目ですが、県民局単位で行われてきた地域づくり懇話会について、令和7年度は、大半の地域で開催されませんでした。地域づくり懇話会は、広い県土の地域ごとの異なる課題の解決に向けて、課題と情報の共有、活発な議論を本旨とする会議であり、我々市長会としては、大変重要な会議と位置付けさせていただいております。今年度においては、それぞれの県民局等の現状・希望等に合わせ、ぜひ開催していただくようお願いするとともに、各県民局・センターが、現場に根ざした一定の裁量を持って決断できるような仕組みを新たに構築していただくようお願いしたい。

このことについては、決して新しいものを作るということではなく、地域づくり懇話

会がこれまで果たしてきた仕組みに戻し、またさらに新たな課題にも対応できるような地域づくり懇話会の開催や、県民局等の体制の充実強化を望むものです。

最後になりますが、先ほど申し上げました市長会の重点要望といたしまして、兵庫県市長会第1回総会において、採択いたしました要望事項のうち、現在、各市共通の重要課題となっております、地域医療の確保、部活動地域展開の推進、これらのことにつきまして、兵庫県の方へ投げかけさせていただきたいと思っております。

これについては、例年8月に開催している市長会の知事要望において県での検討状況を報告いただき、その結果を市長会で再度議論し意見としてまとめ、また県の方へ投げかけ、年間を通じて協議を深めていきたいと考えております。場合によっては1年で終わらないことも承知しております。

市長会から一方的な提案ばかりしましたので、またご不明な点やご了解いただけない部分もあるかと思いますが、この度の提案については、繰り返しになりますが、兵庫県の未来であったり、県政あるいは市政における重要課題を、兵庫県と県内29市さらには12町が共に考え、同じ方向を向いて検討し、県と市町が連携を深めながら齋藤県政が掲げられております「躍動する兵庫、希望をつなぐ未来をつくる」ためのものであることを申し上げたいと思っております。

以上をもって、市長会からの提案とさせていただきます。どうぞご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。

#### (福山 総務部長)

貴重なご提案をいただきありがとうございます。本日開催の県市町懇話会ですが、これは例年1月と4月に全県で取り組む施策や、県と市町が連携して推進する施策などの課題について意見交換させていただいています。また、令和4年度からは、市町の次年度の予算編成作業に反映できるよう、概ね11月頃に、政策懇話会を開催させていただいているところです。

ご指摘の通り、一層政策議論を深めていくということは非常に重要であると考えておりますので、いただいたご提案・ご意見を踏まえながら、有意義な意見交換ができるように検討していきたいと考えていますので、よろしくお願い致します。

#### (川井 企画部長)

昨年度は調整がつかない地域が多く、開催を見送ることとなった地域が多くありましたこと、まず深くお詫びを申し上げます。

地域づくり懇話会については、県民局・県民センターが、管内の地域課題等を踏まえて意見交換を行う大切な機会だと認識しておりますので、最近の開催状況等も踏まえながら、開催に向けた検討を進めてまいりたいと思っております。その際には、各県民局・県民センターともよく調整を行って進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

#### (門間 豊岡市長)

但馬地域を代表して、地域医療について課題を共有させていただきたいと思っております。すでに新聞等でも、お耳に入ってるかもしれませんが、但馬地域の高度急性期医療を担う公立豊岡病院組合の財政状況がかなり厳しくなっております。構成市は豊岡市および朝来市です。

その中で、2年で50億の資金融資が欲しいと提案されたのですが、それはなかなか厳

しく、1年で両市合わせて25億ということで、一息つかせようとしておりますが、なかなか構造的な改革をしないと進めていくことができません。それは我々の自助努力として進めていきますけれども、県下の中で県立病院がない地域での高度急性期を担う今の公立病院のセクター、医療セクターがそういった状況になっているということの課題認識を是非とも持っていただき、県独自の支援、あるいは国への足並み揃えた要望など、今の公立病院が置かれている状況を踏まえての、県としてのご意見を伺えればと思います。

#### (仲田 三木市長)

私ども豊岡市と一緒に県立病院のない地域でして、三木市・小野市の両市で北播磨医療センターを支えております。急性期医療として必要な病院で、我々としましても、まずは内部で改革していこうということで、今、経営改善委員会を、第三者を入れて設置しています。その上で、県立病院がないということもありますし、医療について、県の医療構想もあると思いますので、その辺も踏まえて、北播磨、但馬ということもありますが、県全域のことも考えて医療構想等を進めていただければと思います。以上です。

#### (山名 神河町長)

神河町でも140床を有する公立神崎総合病院を単独で運営しております。昨今、病院経営が非常に苦しくなっております。コロナ禍の期間については、交付金等で経営が少し良くなりましたが、その後は大変な赤字経営でありまして、令和8年度予算編成においても、実に5億円の赤字計上となっております。

目標とする病床稼働率を85%としておりますが、85%が高いのかということ、先日もはり姫の委員長が言われておりましたが、90%を切ると大変な状況だという認識からすれば、85%という目標設定は甘いのではないかと感じておりますが、現状では70%を切るような事態となっております。そのような中で、今年度においては診療報酬の改定もありましたが、実態としては非常に厳しい状況にあります。

要望ばかりするのではなくて、現場が意識改革をしっかりとやっていかなければいけないということで、私も毎週、執行部会議に出席し、現状をしっかりと把握していきながら、嫌われ者を役というか、そういう役目も果たしていきながら、なんとか意識改革を進めていかなければいけない、このことに今、注力しているところです。現場もしっかりと頑張るといふ決意ですので、県においても、医療の充実について国への働きかけをどうぞよろしくお願いいたします。

#### (中田 伊丹市長)

平素は、伊丹市はじめ都市部に対する医療関係での格段のご配慮、まずはお礼を申し上げます。

ご存知の通り、阪神北準圏域には県立病院はございません。そのため、伊丹市としても高度急性期病院独身にと再編させていただくという流れから、県からも多額の支援等を今いただいているところであり、感謝申し上げます。

一方で、我々の地域では近畿中央病院という400床以上を有する中核病院が閉院するという、全国でも稀な事態となりました。幸いに、現在、近隣市の力を得て救急搬送、または、すでに通っている患者の皆さまの転院については、無事に進んでいるところですが、今後こういった事態が起こるかというのがまだ予断を許さない状況にあります。

県立病院も、今は運営が非常に大変だということは、新聞報道等で承知しているところ

ろでございますが、引き続き、都市部の病院統合再編、また、県からの支援等々につきましても、格段のご配慮をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

**(田村 三田市長)**

先ほど来、地域医療の件で、運営面に関するお話が大半だったと思いますが、もう1つ、先ほど冒頭にあの豊岡市長がおっしゃったところですが、県立病院がない地域においては、3点の観点から、市町としても取り組んでいかななくてはいけないと考えています。1つは、診療報酬が6月から改定になりますけれども、運営面の観点。2つ目が医師の確保という観点。それから3つ目が、国が進めてきた再編統合にかかる整備費の高騰という側面、その3点で、かじ取りをしっかりとやっていかななくてはいけないということで、取り組んできております。

ですから、運営面のことや医師確保のことも申し上げたいんですが、今、喫緊の三田市における課題というのは、やはり整備費の高騰により、再編統合が非常に重くのしかかっているというところなので、再編統合に関する整備費について、地域医療介護総合確保基金の支援、それから自治振興事業貸付金の期間の延長等、ここは、必ずしっかりとやっていただきたいと強く思う次第であります。

当然ながら、全体で話するところでもありますので、広く公立病院の運営につきまして、県とのリレーション、それから広域医療ですから、近隣との連携という観点でお話をするべきではありますが、皆さんが運営面のところでお話しされておりますので、あえて、整備費についての全面的な支援を、国に対しても、要望してきておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

**(山下 保健医療部長)**

県としましても、地域医療をいかに守っていくかということは、本当に危機感を持って臨んでいるところです。日本の医療というのは、あの国民皆保険であったり、フリーアクセスであったり、非常にいい面もありますが、ただ価格がなにせ公定価格で、2年に1回の診療報酬改定ということで、市場経済についていけないというところが、これまでずっと積み重なってきたことが今になって大きく反映されているというのが現状です。そんな中で、少なくない病院が建替の時期を迎えているということで、様々な課題が噴出しているということだろうと考えております。

我々としては、地域医療構想、それから医療計画の6年計画の3年目ということで、今後後半に向けてどうしていくかということと皆さま方と一緒に議論してまいりたいと思っておりますし、県立病院がない地域におかれては、本来であれば県が担うような三次救命救急を担っていただいているということも十二分に承知しておりますので、そのあたりの役割分担と言いますか、そこもしっかりと議論を進めてまいりたいと思います。

なにせ国の方も、ヒト・モノ・カネすべてが非常に厳しい状況の中で、今までの医療をずっと同じ形で同じ規模でやるというのは、当然無理な話でありますので、2040年、さらにその先を見据えて、しっかりと治す医療と、あるいは治し支えていく医療とをしっかりと見極めて、しっかりと役割分担しなければならず、医療の総合デパートみたいな小さな病院をたくさん作って維持しても非効率となります。このためには、やはり地域住民の皆さま方の努力・ご理解と、我々の説明の努力が大変重要であります。

そういう形で機能を統合していく中で、例えばアクセスの確保など、新たに出てくる課題もありますので、それについても、今後もまた皆さま方と一緒に議論して参りたい

と思います。おそらく医療資源等が潤沢ではない地域、しかもそこに県立病院がないという地域におかれましては、本当に目の前に危機が迫っていると思います。

それから、今、建替をされているところについては、建設費が非常に跳ね上がっています。国の方でも単価の引き上げを検討していますので、我々も、国に要望するだけではなく、国の動きもしっかり見ながら、県としてもできる限りの支援をしながら、地域医療を守っていきたいと思っております。

今後もお皆さま方から様々なご意見を伺いまして、一緒に地域医療を守る努力を続けて参りたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

#### (津田 市川町長)

私どもは兵庫県下で一番小さな町であり、中学生の部活の地域展開については、現在は中学校拠点で、中学校の先生方に、主に指導して見ていただいております。ただ、休日の指導に関しては、一部先生方と地域の指導者に見ていただいておりますが、兵庫県下を見てみますと、神戸市あるいは姫路市といった都心部では、平日も含めた中学校の部活をするというように進んでおります。

その中で、私どものような小さな町では、子どもたちがいったん中学校から帰宅してしまうと、現状はスクールバスで約15キロぐらいまでの地域へ送っております。そして、その子どもたちはまた町の中心部へ出てきて部活動をするということは不可能だと思っております。今後においても、町としてはできるだけ学校を中心とした部活動にしていきたい、そういう思いがございまして、今後とも学校を拠点として、学校の先生方、あるいは地域の指導者に謝金を出しながら運営してまいりたいと思っております。そうすれば、子どもたちは今まで通り、学校で5時まで部活をしてスクールバスで家へ帰る、こういったことが可能となりますが、指導者に対する謝金が多額に必要になります。このあたりについて、国、または県の方からもご支援をお願いしたい、と思っておりますので、よろしくお願い致します。

#### (清元 姫路市長)

姫路もそんなに簡単ではございません。我々も周辺地域、非常に人口減少が激しくなっておりまして、統廃合する学校とかが、どう姫カツ（部活動）に来れるかということ、特に交通を確保するという点についても非常に苦労しております。そういう意味では、部活動の地域展開をすべての部活動に拡大したいと思っておりますが、ない袖を振れない部分もありますので、とりあえずスタートしてみようという形でやっておりますが、県からもいろいろご指導いただければ幸いです。

#### (越田 川西市長)

川西市では、4月から完全移行しまして、平日も込みでやっております。先日MBSさんでも特集されたのですが、進め方は地方それぞれだと思いますが、進める進めないということには、是非はないと思っておりますので、県教育委員会からは、そういった発信を、是非していただきたいと思っております。

私たち、比較的先頭を走っておりますが、なぜ先頭を走るんだというご批判をいただく状況にありますので、その点をお願いを申し上げたいと思っております。

その上で、木村教育長がああ教育会議の際に、今回、教育長として進めていきたい施策で、不登校対策とで2つ目にこのクラブ活動の課題について、挙げていただいたと報告を受けております。ただ、今回挙げていただいた施策は県独自のものではなく、国でやっているものですし、正直、私ども先行して取組を進めている自治体では、正直使え

るものがほとんどありません。先に進んで結果、補助金が取れないというのではなく、普通は、先に進んだところがたくさん支援してもらえるとというのが、通常の施策の進め方だと思いますので、財政的な支援になると知事部局の支援も必要かと思いますので、知事部局に対しても、併せて、ご協力をいただければと思います。

#### (酒井 丹波篠山市長)

平日も休日も全て地域に移行するというのが、地方の市町では大変難しいところがあって、受け皿であるその指導者や、それから子供たちが部活動をする場所に移動する交通手段の確保が非常に難しいという側面もありますので、すべて平日も休日も地域移行するのが、進んだ取組であるというような捉え方は、ちょっと私はどうかと思います。

もともと部活動というのは学校で、すべての生徒が学校教育の中で、学校の中でいろいろなスポーツ等をすることによって、教室の中で得られないようないろいろな体験とか、みんなで目標に向かって努力をするとか、少しでもうまくいくと、それが将来の大きな力になっていくという教育的な面からも、部活動というのは大きな役割を果たしてきたと思います。ところが、学校の先生方の働き方改革を中心として、先生方にすべてそれを、負担させるのは難しいということが、この地域移行の話の出発点だと思います。ですから、休日まで先生に対応してもらうのは難しいと思いますが、平日はできるだけ学校で従前通りしていただくという形も、あるべき姿の一つではないかと思います。家庭環境に恵まれた生徒だけが部活動ができるということにならないよう、すべての生徒が部活動に親しめるような体制が作られなければいけないのではないかと思います。

それで、学校の先生方が平日まで見られないというのであれば、平日学校に指導者を派遣しなければならないのですが、市川町長のおっしゃったように、それを市や長がするようにと言われたら、大変大きな財政的な負担になりますので、条件が整う市町はすべて移行していけたらと思います。そうではない地域など、様々な事情がありますので、移行ができてないところが遅れているということではなく、その市や町にとって一番ふさわしい展開方法を考えていく方が私は良いと思いますので、そういった地域の事情を、ぜひ斟酌をいただきたいと思います。

#### (木村 教育長)

部活動の地域展開についてご意見いただきましてありがとうございます。中学の部活動の地域展開については、今年度から本格的に進められる市町もあれば、試行・検討を重ねておられる市町もあり、昨年度から地区推進協議会等でも状況等をお聞かせいただいているところですが、検討を進めていく中でも、様々な課題が生じてきている状態ではないかと思います。国でも共通する課題について整理し、対応するための事業メニューを作られ、それをもとに県で予算を組んでいるところですが、先ほどからご意見をいただいておりますとおり、現状では先行して取り組んでいる川西市では、もう合わないというようなご意見もありましたし、また、今のメニューではなかなか予算的に厳しいというご意見もございました。津田町長や酒井市長からもそういったお話もいただきましたので、国に対しましても、しっかりと部活動の地域展開が進めていけるような、継続的な支援を要望し続けていきたいと考えております。

併せて、県としても、市町の実情に応じた地域展開ができるよう、きめ細かい支援をしていくことが重要と考えております。先ほどもお話ししました、ブカツ・サポート・コンソーシアムと協定を結びまして、地域クラブサポートセンターを今年度から教育委

員会に設置しました。こちらの方で課題等を丁寧に聞き取りながら、伴走型の支援をしていきたいと考えております。また、教育事務所にエリアコーディネーターも設置しておりますので、いろいろお聞かせいただきながら、地域によって状況に大きな差が出てきていると思いますので、各地域に合った支援をさせていただきたいと考えております。

いずれにしても、中学生の子どもたちが自分のやりたいという思いを大切にしながら、好きな部活動にこれからも安心して取り組むことができるということが一番大切だという認識のもと、きめ細かな地域展開支援をしていきたいと思っておりますので、引き続き率直なご意見やご質問、ご相談をお寄せいただきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

### (松本 尼崎市長)

私からは2点、地域産業の発展と、環境の調和の確保という視点かなと思います。

1点目です。阪神間、特に臨海部は、地域産業が発展していく中で、港湾計画が改定されるなど、物流の拠点としても今非常にニーズが高まっています。物流の輸送量は統計的には、全国でさほど増えていないと思いますが、一般消費者向けの輸送量が増え、それに伴い倉庫がどんどん増えトラックの交通量が増えてきているという中で、県道の整備等をして、例えば、四車線ある道路が、うち二車線はトラックが止まって、渋滞になるというケースが多くあります。そのため、道路を整備した分の費用対効果で言うと、効用が十分に得られていないというような状態が起きていて、今後さらに港湾計画が進んでいくと、ますます渋滞が予想されるのではないかと考えています。

県と警察で、止まっているトラックにアンケートを取ってみると、例えば尼崎だけで見ても、市外から尼崎まで来て待機しているとか、あとは通過するだけで止まる場所がないので、尼崎で通過してもらっているとか、こういうような事情があって、こういうトラックの渋滞の問題と、またトイレ等がないので、ゴミの問題も出てきています。

そうした中で、今後さらに港湾計画が改定されて港湾機能が強化されていく中で、こうしたトラック渋滞の問題を、これは尼崎だけではなくて、他の地域でもある話ではないかと思いますが、港湾部のこの物流機能強化と合わせたトラック渋滞対策を考えておいた方がいいと思っています。「止まるな」・「駐車禁止」という警察的な指導だけではやはり限界がありまして、調べると、大阪の方では東大阪の休憩場で、社会実験でやっていたりだとか、あとは株式会社ですが、大阪の南港のトラックターミナルを作ったりとか、このように空いてる土地を上手く使って、トラックの待機場を確保している取組がありますので、それも参考に、渋滞対策について考える時期に来ているのかなと思っています。

それと2点目は、兵庫県内全体でこれから課題になるデータセンターについてです。テレビでもかなり話題になっていますが、尼崎でもデータセンターの立地が進んでいます。まず、建築基準法上の位置づけが明確でないので、どこの用途区域であれば建てられるかということがまだはっきりしてなくて、地域の工場や住民とのトラブルが一定あるという状況になっています。あと、データセンターは温度を下げないといけないので、たくさんの非常用発電機を常に稼働させる必要があります。その発電機は基本的に環境対策、大気汚染防止法上の対象外、規制の対象外なのですが、非常に電気を消費しますので、煙突がたくさんあって、数も多いので、それを一気に1ヶ月に1回、定期検査で動かすと、結構すすが出て、これが、環境問題の観点から本当に大丈夫かという、懸念もあります。こうした環境的な規制の対象外ということもある一方で、データセン

ターは今、特に西の方は生成 AI 等のニーズが高まっていて、データセンターの需要が高まっていますので、このことについてどうしていくかというのは、東京ではすでにガイドラインの作成を始めていますが、我々も考えていかななくてはならないのかなと思っておりまので、このあたりの問題意識を共有しておきたいと思ひます。

#### (宇野 土木部長)

尼崎などの臨海部のいわゆる工場、いわゆるロジの関係が集積しているという中で、違法駐車等が見られるというようなこともござひます。現在尼崎においては、ご存知だと思ひますが、県・市、それと警察が一緒になって、協議会を設けて、この辺の路上駐車対策を進めさせていたひておりま。具体にあの駐車喚起や注意喚起の看板でありますとか、駐車違反の運転者に対して、まあ移動を促すというようなパトロールを進め、改善に努めているところでもござひますが、おっしゃる通り、そうした取組をして、ある程度時間が過ぎると、また戻ってくるというようなこともござひます。我々道路管理者としましても、四車線の中を一車線塞がれるというのは非常に辛い、ある意味被害者的なところでもござひますので、そういった行為は見逃すことができないと思ひておるところです。ただ、そもそも現在発生しているのは、まあ特に荷待ちの関係で特に発生しているのかなと思ひますけれども、荷待ちにおいては、物流施設における受け入れ態勢というところが、一義的に問題になるのかなと思ひておりま。その解消につきましては、荷主側において、まあ待機スペースの確保であったりとか、時間調整等を行うということが、基本的な責任であると思ひるところでもござひますので、県としましても、引き続き、警察、あるいは市とも連携した取組を進めながら、荷主、あるいは運送業者に対し、適切な対応を強く求めてまいりたいと思ひておるところです。

#### (上西 環境部長)

データセンターは、非常に大規模なものであったり、付随する施設によっては環境影響評価の対象となり、県や市の環境影響評価条例の手続きの中で、指導が可能な場合もござひます。ただ、環境影響評価の対象とならないものについては、おっしゃる通り、大気汚染防止法に基づく排出基準は非常用発電機に対して適用はござひませんが、法に基づく行政指導は可能であると認識しておりま。今後、県内市町においても、データセンターの建設が進んでいくものと考えられることから、適切な指導が行えるよう、県内のみならず、全国の事例も情報収集しまして、県内市町に情報共有してまいりたいと思ひておりまので、どうぞよろしくお願ひ致します。

#### (松浦 まちづくり部長)

まちづくり部では建築基準法を所管しておりまますが、データセンターに関するご相談は、実はあまりござひません。ただ、もしそういった案件が今後出てきましたら、県としましても、個別の利用状況を踏まえて判断することになろうかと思ひますが、あの建築基準法上では、例えば倉庫や、事務所の扱いになるのかなと思ひておりま。

一方で、全国の県・市町、そして民間の確認検査機関で構成される日本建築行政会議において、この取扱いについては、今議論がなされていると聞いておりま。ただ、このデータセンターについては、騒音や、地下水の問題、ばい煙の影響などもありますので、今後、県・市町、建築基準法関係者等に対しまして、課題認識の共有をさせていただきますし、東京都の江東区ではガイドラインの作成が進められているということも聞いておりまので、当該ガイドラインについても、情報共有させていただきたいと思ひ

ております。また市町において、データセンター整備について、何らかの規制を考えるとということでありましたら、県として技術的な支援について何ができるか、検討を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### (守本 南あわじ市長)

本日、山下保健医療部長から旅館業法の規制強化の話がありましたので、淡路島市長会の会長として、状況をお話しさせていただきたいと思っております。

実は淡路島の民泊サービス施設が、過去5年間で323件ということで、県の中で7割以上を占めているという状況にあります。このうちの279件、9割近くは、無人の管理ということで、かなり苦情が寄せられています。騒音・ゴミ、あるいは駐車等です。そして、これに関して苦情を言う先がわからないといったような状況になっています。そこで、今回の規制強化に際して、2点ほど、お願いを申し上げたいと思っております。

1つ目は、民泊法と比較しまして、旅館業法は、周辺住民に計画を周知するとか、あるいは宿泊者にその規制や遵守事項を周知するとか、違反の際の業務改善命令とかがないということで、9割近くが、規制の緩い簡易宿泊所となっておりますので、この内容を、民泊法と比較して、こっちがゆるくなるというようなことがないように、そして有効な規制ができる内容となるように、是非とも規制強化をお願いしたいと思っております。

それから2つ目ですが、例えば南あわじ市では民泊に関して地元の自治会が中心となって、この地域で守るべきルール作りをしているところが増えてきております。必ずしも厳しく取り締まるだけのことでなくて、事業者とどういう形で共存できるかという視点で取り組んでいるわけです。したがって、今回の規制強化に際しては、こういうこの地域との協議による取り決め・ルールが反映されるようにしていただければと思っております。もちろん民泊増えることは、地域・産業の活性化にとって重要でありますので、うまく共存できるように規制していただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### (山下 保健医療部長)

民泊に関しましては、先ほど市長が言われたとおり法律の規制の中で対応するところが違っておりまして、いわゆる民泊法の方に合わせる形で、条例を規制することができるということが、1月に国の方から出ましたので、県としても条例を改正して、いわゆる民泊法と同じぐらいの規制強化を旅館業法に対しても適用していくということで、これを来年4月には施行したいと思っております。

また、地域の実情やその他細かい事項については、その条例に基づく規則において、しっかりと市町の皆さまのご意見を伺いながら決めて参りたいと思っておりますので、またよろしくご指導のほどお願いしたいと思っております。

#### (清元 姫路市長)

昨日は県道広畑青山線バイパスが開通し、本当に渋滞で苦しんでいる産業界からも、また地域の方々からも大変喜ばれております。

そのような中で、播磨臨海地域道路について、資料21ページにも記載いただいておりますが、国道2号バイパスの慢性的な渋滞緩和、製造業の物流効果、災害時のネットワーク確保など、多彩な問題を解決できる、未来型投資の事業だと思っております。

播磨地方、もしくは阪神間も同じですけれども、産業が頑張らないと、この、持続的な発展も難しいと思っておりますので、兵庫県の財政は厳しいことはご理解しておりますけれ

ども、ぜひ、県内の様々な道路行政につきまして、高規格道路の早期着工化とネットワークづくりについては、道路整備、しっかりと、共に協力しながら頑張っていたきたいということを職員が強くおりましたので、ここで述べさせていただきます。どうもお時間いただきましてありがとうございます。

#### (宇野 土木部長)

力強いご支援、本当にありがとうございます。土木インフラは、地域の安全安心や、県民の生活、あるいは社会活動を支える重要な県土の基盤という風に我々としても考えておりますので、これからも、厳しい財政状況ではございますが、我々なりにしっかりと頑張っていきたいと思っておりますので、引き続き、市町長におかれましても、国の方への要望活動等、何卒ご支援いただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

#### 【閉会挨拶】

##### (齋藤 兵庫県知事)

改めまして、本日は、限られた時間でありましたので、発言されたい方、まだまだおられたかとは思いますが、貴重な意見交換をさせていただき、本当にありがとうございます。全体としていただいた意見については、しっかり我々も受け止めさせていただいて、県政に反映し、できるだけ取り組んでいきたいと思っております。

特に市長会からもご要望のありました公立病院の問題や部活動の問題ですが、部活動の問題については、先ほど教育長が申し上げた通り、県としてやれることしっかりとやっていきつつ、市川町長などからもご発言ありましたけれども、自治体や地域にとって、やはり特性がありますので、実情に応じて、どういったことが、現実的にできるかというのを、各首長の皆さまが苦慮されていると思っておりますので、我々としてできることを、しっかりサポートさせていただきたいと思っております。

それから、公立病院の問題、医療の問題は、本当にハード・ソフト両面で大変厳しい状況にあります。県立病院も大変厳しい状況にありますけれども、6月の診療報酬改定でどうなるのか、そして人材の確保にもしっかりと取り組んでいくということ、さらには田村市長からもありましたとおり、建て替えの問題における、県としての基金などを活用した支援、さらに総務省による地財措置の充実、そういったことにしっかりと取り組んでいくことが大事だと思います。一方で、ランニングにおいては、地域の公立病院における、繰出基準というものもしっかり充実していくということ、総務省に要望していくことも含めて、地域医療の確保に向けた取り組みについては、引き続き県としても、最重要施策の一つとして、取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

今日はテーマには出ませんでした。農林水産業も大変重要な施策であると思っております。都市部のみならず、地方部における地域のインフラ、産業であると同時に、県民の皆さまの食料安全の確保にもしっかりと取り組んでいくということも、農林水産業の本当に大事な役割だと思いますので、そのあたりは、農林水産のプロである守本真一さんが今回、副知事になりましたので、私もぜひ農林水産業は齋藤県政にとっても重要な施策だということで、これからはしっかりとやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

そして、この県・市町懇話会のあり方について、冒頭に福元市長からご提言いただきましたが、キャッチボールをする場を、これからはしっかりと設けていくということで、私が知事にならせていただいてから、知事挨拶とか、資料説明の場っていうのは、当時

よりだいぶ少なくなって、できるだけご発言いただく時間を増やさせていただいている点をご理解いただきたいと思います。それでもなお十分ではないというところもあると思いますが、今後もその点、努力を重ねていきたいと思ひますし、また地域づくり懇話会など、各地域で意見交換や現場を見させていただく機会も、これからも増やしていきたいと思ひます。

躍動する兵庫の実現に向け、県と市町がしっかり連携して取り組んでいきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひします。本日はありがとうございました。

ありがとうございました。